研究成果報告書 科学研究費助成事業

今和 3 年 6 月 2 日現在

機関番号: 32675

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2018~2020

課題番号: 18K10862

研究課題名(和文)大学生アスリートの価値の明確化を促す心理サポートプログラムの開発

研究課題名(英文)Development of a psychological support program to promote values clarification in university athletes

研究代表者

荒井 弘和 (Arai, Hirokazu)

法政大学・文学部・教授

研究者番号:30419460

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文):本研究の目的は、大学生アスリートが持っている価値とその機能を解明し、自らの価値の明確化を支援するプログラムを開発することであり、以下の成果が得られた。(1) 大学生アスリートは、「他者をリスペクトする」など、多様な価値を持っている。(2) 価値が明確で、価値にコミットした行動を行っているアスリートほど幸福感が高い。(3) アスリートが持つ価値は、「スポーツパーソン」と「アスリート」という2つに大別できる。(4) 価値の明確化のプログラムに参加することで、自らの体験と価値との関連に対する気づきを得ることができる。とくに、異なる特性を持つ競技に取り組むアスリートの価値に触れることは有意義 である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
(1) 現代のアスリートが持っている具体的な価値を抽出し、アスリートの価値が非常に多様であることが示された。(2) 明確な価値を持っているアスリートほど幸福感が高いことから、アスリートが明確な価値を持つことを支援することの意義が確認された。(3) アスリートが価値について考える際には、「スポーツパーソン」と「アスリート」という2つの側面が重要である可能性が示された。(4) アスリートが価値を明確にする作業によって、アスリートは様々な気づきを得ることができると示唆された。

研究成果の概要(英文):The aim of this study was to elucidate the values and functions of university student athletes and to develop a program to support the clarification of their own values. The main results of the study were as follows (1) University student athletes have a variety of values, such as "respect for others". (2) Athletes whose values are clear and whose actions are committed to their values have a higher sense of well-being. (3) Athletes' values can be divided into two main categories: "sportsperson" and "athlete". (4) Participating a value clarification program can lead to an awareness of the relationship between one's experiences and values. In particular, it is useful to be exposed to the values of athletes who are involved in sports with different characteristics.

研究分野: スポーツ心理学

キーワード: 価値観 アスリートセンタード アクセプタンス&コミットメント・セラピー 道徳教育 大学スポーツ

協会

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等に ついては、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1.研究開始当初の背景

スポーツの価値と呼ばれるものには、2種類ある。1つは、スポーツが関わる人に与える影響である。もう1つは、スポーツに取り組むアスリートが持っている価値である。本研究では、後者の価値に注目する。

ここでいう価値とは、「個人に人生の全般的な目標を提供し、その目標に向けた一貫性のある行動を導くオーギュメンタル」である (吉岡, 2006)。オーギュメンタルとは、行動を生起させるルールのことである (松本, 2006)。価値について言及した三田村 (2017) は、どのような生き方をしていきたいのか、何のために死んでいきたいのかという基準を価値として設定することによって、「自分自身で自由に選んだ選択的保持の基準」に沿って行動を進化させていくことができると述べている。

国際オリンピック委員会は「卓越」「友情」「敬意/尊重」がオリンピック精神の中心的な価値であると強調している (日本オリンピック委員会,2014)。国際パラリンピック委員会 (2014) は「勇気」「決断」「平等」「鼓舞」をパラリンピックの価値として挙げている。これらの価値は、強く、正しく、美しく、スポーツのあるべき姿を私たちに教えてくれている。しかし、アスリートは、これらの価値だけを持っているのではなく、多様な価値を持っているはずである。そして、スポーツは社会と関連して存在しているため、過去の資料を参照するだけでは不十分である。現代社会に生きるアスリートが持つ価値を把握するべきである (荒井,2019)。

近年、大学生アスリートに対する期待は高まっている。実際、多くのトップアスリートが、大学を経て活躍している。大学生アスリートは、多様な役割を持っているゆえに、「勝ちたい」「自己記録を更新したい」「名声を得たい」などのスポーツに関連した価値だけでなく、「学業を修めたい」「恋愛をしたい」「安定した生活を送りたい」など、多様な価値が葛藤している状態にあると予想される。また、アスリートのデュアルキャリアやセカンドキャリアを考える際、価値の葛藤は看過できない。現代のアスリートにとって、価値の重要性は増すばかりである。

社会がアスリートに対して抱いている価値・社会がアスリートに期待している価値ではなく、大学生アスリート自身が考える価値に注目する必要がある。青年期にある大学生は、価値が揺らぐ時期を生きている。大学生アスリートは、入学後に成人になることで責任も増すし、高等学校までと比較して自律的にスポーツに関わる者も多くなるため、自らが持っている価値を明確化することが重要になる。

近年、心理療法においても、価値を積極的に扱おうとする動きがある。その1つが、アクセプタンス&コミットメント・セラピー (ACT) である。第3世代の認知行動療法と呼ばれる ACTには、6つのコア・プロセスがあり、その1つに「価値の明確化」がある。ACTでは、価値の選択を手続き化し、価値を明確化する(武藤,2006)。すべての ACTの技法は、クライエントが自ら選択した価値に沿って生きるのを支援することより下位に置かれ、脱フュージョンやアクセプタンスといった主要な介入プロセスでさえ、ある意味では二次的である(ヘイズほか,2014)。そして、ACTの枠組みに沿って、価値の明確さや価値にコミットした行動の程度など、価値に関連する要因を評価することのできる尺度が開発されている。

2021 年にわが国で東京 **2020** 大会が開催されることに伴い、わが国のスポーツ界において、勝利という価値が強調されすぎてしまう懸念もある。つまり、勝利至上主義が加速する恐れがある。しかし、アスリートは多様な価値をたずさえることを許容されるべきであろう。

2.研究の目的

本研究の目的は、大学生アスリートが持っている価値と、その機能を解明することであった。 そして、自らの価値の明確化を支援するプログラムを開発することを目的とした。具体的には、 以下の5つの研究を設定した。

研究 1 文献研究「現代のスポーツは、どのような価値と関連しているのか?」(研究 1 の成果は上記の背景に含めている)

研究2 インタビュー調査「大学生アスリートは、どのような価値を持っているのか?」

研究 3 調査研究 (実験研究)「大学生アスリートが持っている価値同士は、どのように関係し合っているのか?」

研究 4 調査研究「価値はどのような機能を持っていて、どのようなメカニズムで機能するのか?」

研究 5 プログラム開発・介入研究「価値について考える・対話することは、どのような効果を もたらすのか?」

3. 研究の方法

(研究 2・3)

調査対象者

4年制大学の 1─4 年生で、運動部 (いわゆるサークルは除く) に所属している競技者で、研究 参加に同意した者とした。

調査内容

(1) 人口統計学的データ

性別、年齢などをたずねた。

(2) 価値に関連する要因

本研究では3つの価値の尺度を使用した。1つ目は Personal Values Questionnaire-II (PVQ-II: 土井・横光・坂野,2014) を用いた。この尺度は土井他 (2014) によって信頼性および妥当性が確認されている。人生における様々な領域(家族関係・友人/社会関係・恋人 / 恋愛関係・仕事/キャリア・教育/個人的成長・レクリエーション/レジャー/ スポーツ・スピリチュアリティ/宗教・地域性 (コミュニティ)/ 国民性・健康/身体的ウェルビーイング)の中から自らが最も重要と考える領域を一つ選択して回答する形式である。本研究では、「レクリエーション/レジャー/スポーツ」という領域のみを使用した。「レクリエーション/レジャー/スポーツにとって大切に思うこと (価値)」の教示を改変して提示し、自由記述を求めた。具体的には「あなたが部活動で行っているスポーツに関して、あなたは一番どんな人になりたいか書いてください。例えば、スポーツチームの一員として一緒にプレイしたり、競争意識を持ったり、活動的であることを大切に思う人もいます。しかしあなたなりにスポーツに関してどのような人でいることが大切か書いてください」という教示を採用した。

そして、その価値を選択した理由、どの程度その価値に沿って生活できているかなどについて、価値の方向を決め選択する状態を測定する「価値の選択」因子 4 項目、嫌悪的な随伴性 (負の強化、あるいは罰を含む) によって価値が動機づけられているか測定する「嫌悪的な随伴性」因子 2 項目、価値に沿って行動する状態を測定する「価値に沿った行動」因子 2 項目の 3 因子 8 項目 (価値を自由記述する 1 項目を除く) について 5 件法で測定した。

2つ目に、価値の明確化尺度 (齋藤・柳原・嶋・岩田・本田・大内・熊野,2017) を使用した。価値づけに関する項目は、価値に沿った行動への動機づけを測定する「動機づけ」因子 5 項目で構成されている。コミットされた行為に関する項目は、困難な場合でも価値に沿った行動が継続することを測定する「行動継続」因子 5 項目、価値に沿った行動に随伴する行動内在性強化を自覚することを測定する「強化の自覚」因子 5 項目の 2 因子 10 項目で構成される。

PVQ において記述してもらった対象者の価値の内容について、価値づけに関する項目では、「この価値を意識したとき、感じたことについて、最も当てはまる数字を一つ選んでください」、コミットされた行為に関する項目では、「過去2週間、この価値に向かうため、具体的に行ったことについて、最も当てはまる数字を一つ選んで下さい」という教示文で7件法によって回答を求めた。得点が高いほど、価値づけ、コミットされた行為の効果を得られていることを示す。

3つ目は、日本語版 Valuing Questionnaire (土井・坂野・武藤・坂野, 2017) である。この尺度は、個人的に重要なことを明確に自覚している程度を測定する「前進」因子 5 項目と、価値の軽視あるいは他の心理的体験への注目によって、望まない体験を回避し、価値から気をそらしてしまうために、価値に沿った生活がどの程度崩れているかを測定する「障害」因子 5 項目の 2 因子 10 項目で構成される。7 件法によって評価を求めた。

(3) 主観的幸福度

内閣府経済社会総合研究所 (2012) にしたがい、「現在、あなた自身はどの程度幸せですか。「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸せ」を 0 点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれかの数字を 1 つだけ○で囲んでください」という教示によって、主観的幸福度をたずねた。0—10 から 1 つの数字を選択させ、得点が高い方が幸福と感じていることを表している。

(4) 協調的幸福感

「他者との協調性と他者の幸福」「人並み感」「平穏な感情状態」に焦点を置き、対人関係の調和に関連する幸福感を測定する **Hitokoto and Uchida (2014)** を用いた。9 項目で構成され、「全くあてはまらない (1) 」—「非常にあてはまる (5) 」から当てはまるものを 1 つ選択させた。手続き

大学の講義前後における集合調査法、もしくは、縁故法によって調査を実施し、質問紙の配布・回収を行った。その際、研究参加に関する説明をするとともに、同意書を配布した。なお、参加同意書には、本研究の目的や所要時間、回収した質問紙やデータの取り扱い方法、本研究から得られる結果のフィードバック方法、研究者の情報と連絡先について明記している。そして、対象者が回答をいつでも中断できる権利を明記し、倫理的な配慮を行った。なお本調査は、法政大学文学部心理学科・心理学専攻倫理委員会において審査を受け、研究実施の承認を得た上で実施した。

(研究 4)

調査対象者

4年制大学の 1-4 年生で、運動部 (いわゆるサークルは除く) に所属している競技者で、研究参加に同意した者とした。

調査内容

(1) 人口統計学的データ

性別、年齢、学年などをたずねた。

(2) アスリートの価値へのコミットメント

予備調査によって作成された90項目に対して「競技生活における価値(価値観)を以下に示

します。あなたは、それぞれの価値(価値観)に基づいた行動を、自らの意思で、どれくらい行っていますか?」という教示によって回答を求める。回答は、 $\mathbf{0}$ (行っていない)-10(行っている)の $\mathbf{11}$ 件法であった。

(3) 主観的幸福度

研究2と同様であった。

手続き

本研究では、多様な大学生アスリートの実態を明らかにするという目的に鑑みて、幅広いサンプルからデータを集めるため、社会調査会社 (株式会社クロス・マーケティング) に、インターネット調査の実施を委託した。研究の概要、研究参加の任意性、研究参加に伴う負担の可能性と回答を中止する機会の保障、研究成果の公表と研究によって期待される恩恵、個人情報の取り扱い (プライバシーの厳守) などを説明し、同意が得られた場合のみ、調査への参加を依頼した。本研究は、法政大学文学部心理学科・心理学専攻倫理委員会の承認を得て実施した。

(研究 5)

調查対象者

4 年制大学の 1-4 年生で、運動部に所属している学生アスリートで、研究参加に同意した者であった。

調査内容

(1) 人口統計学的データ

性別、年齢、専門種目をたずねた。

(2) 部活動で競技に取り組むことにおける価値

「あなたが部活動で行っているスポーツをする中で、あなたが一番大切に思っていることを 書いてください」という質問によって、自由記述で回答を求めた。

(3) ワークの感想

ワークについて、よかった点、改善した方がよい点について回答を求めた。

手続き

- (1) 価値について説明する。
- (2) 数名のグループを作る。
- (3) 自分の価値を考え、その価値に基づいたエピソードを思い出す。この段階では、自分の価値が何であるかは共有しない。
- (4) ペアでインタビューしあい、相手の価値を予想する。
- (5) グループ内で、他己紹介によってペアの価値を紹介し、予想した相手の価値をグループでシェアする。
- (6) その後、予想した価値と実際の価値の答え合わせを行う。そして、なぜ実際の価値と予想された価値が一致したのか、または、異なったのかについて対話を行う。これをペアごとに行い、 グループ内で繰り返す。
- **(7)** 全体で振り返りを行う。グループから **1 2** 人に、グループの様子やグループで出された意見を発表してもらう。

一連のワークを行い、その後に調査用紙に記入をしてもらった。研究を実施する前に、研究の目的を説明し、研究参加は任意であること、質問の際に心理的な負担を感じる可能性があること、研究参加の途中で同意を撤回することが可能であること、研究結果は公表される場合があるが、その場合もプライバシーは厳守されることを伝えた。本研究は、法政大学文学部心理学科・心理学専攻倫理委員会の承認を得て実施した。

4. 研究成果

(研究 2 · 3)

研究参加に同意しなかった 10 名を除き、本研究の分析対象者は 325 名 (男子 210 名・女子 115 名) であった。KJ 法の結果、「他者をリスペクトする」「責任感を持つ」「礼儀正しく振る舞う」「チームに貢献する」「辛くても頑張る」「挑戦する」など、90 の価値が得られた。つづいて、価値に関連する要因と主観的幸福度・協調的幸福感との関連を検討した。価値に関連した要因の多くは、主観的幸福度・協調的幸福感との間に中程度の有意な相関係数が認められたが、「嫌悪的な随伴性」因子は、主観的幸福度・協調的幸福感と関連していなかった。また、「障害」因子は、主観的幸福度と関連していなかった。

また、COVID-19の感染拡大によって対面での実験を実施できなくなった状況に鑑みて、現在オンラインでの実験を計画している。 具体的には、 Inquisit Player を用いて、 Implicit Association Test (IAT) を実施することを計画している (法政大学文学部心理学科・心理学専攻倫理委員会承認済み)。実験プログラムは試行済みである。

(研究 4)

215 名の大学生アスリートのデータを因子分析によって分類した結果、アスリートが持つ価値は、「マナーを守る」「フェアプレイをする」など「スポーツパーソン」因子と、「ストイックに取り組む」「目標を持つ」などから構成される「アスリート」因子という 2 つの要素に大別できることが示唆された。

(研究 5)

14 名の大学生アスリートを対象に調査を行い、価値を報告することの難易度は高くないと考えられた。また、自らの体験と価値との関連に対する気づきや、他者の価値に触れることの機能、とくに自らと異なる特性を持つ競技に取り組むアスリートの価値に触れることの機能について示唆を得ることもできた。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件(うち査読付論文 5件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 9件)

【雑誌論文】 計14件(つら宜読刊論文 5件/つら国際共者 1件/つらオープンアクセス 9件)	
1 . 著者名 鈴木郁弥・清水智弘・泉重樹・荒井弘和 	4.巻
2.論文標題 大学生アスリートは受傷したチームメイトをどう認知しているか?	5 . 発行年 2019年
3.雑誌名 埼玉アスレチック・リハビリテーション研究会誌	6.最初と最後の頁 21-25
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1.著者名 榎本恭介・清水智弘・荒井弘和	4. 巻 30
2.論文標題 大学生アスリートが考えるフェアプレイ促進・阻害要因	5 . 発行年 2020年
3.雑誌名 スポーツ産業学研究	6.最初と最後の頁 81-91
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.1_81	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1 . 著者名 佐藤優希・飯田麻紗子・榎本恭介・苅部俊二・荒井弘和	4.巻 38
2. 論文標題 大学生アスリートにおける家族のコミットメント	5 . 発行年 2020年
3.雑誌名 法政大学スポーツ研究センター紀要	6.最初と最後の頁 5-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著
1.著者名 榎本恭介・荒井弘和	4.巻 38
2.論文標題 競技種目の違いによる競技中の反社会的態度の比較:大学生競技者を対象として	5.発行年 2020年
3.雑誌名 法政大学スポーツ研究センター紀要	6.最初と最後の頁 11-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無無無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著

著者名 : 計・3.4	70 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 34-40 査読の有無 無 国際共著 ープンアクセスが困難 - 3 . 巻 59 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
論文標題 7スリート・コーチに対するメンタルサポート3.0 雑誌名 株育の科学 (2020年 (34-40 (3	5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 34-40 査読の有無 無 国際共著 - プンアクセスが困難 4 . 巻 59 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
2020年 雑誌名 雑誌名 ・育の科学 の	2020年 6.最初と最後の頁 34-40 査読の有無 無 国際共著 -プンアクセスが困難 4.巻 59 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁
2020年 雑誌名 雑誌名 ・育の科学 の	2020年 6.最初と最後の頁 34-40 査読の有無 無 国際共著 -プンアクセスが困難 4.巻 59 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁
#は話名	6.最初と最後の頁 34-40 査読の有無 無 国際共著 ープンアクセスが困難 4.巻 59 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁
議論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし ・ブンアクセス	34-40 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 59 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
議論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし ・ブンアクセス	34-40 査読の有無 無 国際共著 - プンアクセスが困難 4 . 巻 59 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
議論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 59 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
無	無 国際共著 -プンアクセスが困難 - 4 . 巻 59 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
無	無 国際共著 -プンアクセスが困難 - 4 . 巻 59 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
無	無 国際共著 -プンアクセスが困難 - 4 . 巻 59 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
国際共著	国際共著 -プンアクセスが困難 - 4 . 巻 59 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 著者名 定澤潤一郎・榎本恭介・鈴木郁弥・荒井弘和 4 . 巻 59 論文標題 大学生アスリートの注意欠如・多動症状と脳震盪の関連 5 . 発行年 2019年 雑誌名 ひ身医学 6 . 最初と最後の頁 47-51 就論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 0.15064/jjpm.59.1_47 査読の有無 無 ープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 - -	- プンアクセスが困難 - 4 . 巻 59 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 著者名 定澤潤一郎・榎本恭介・鈴木郁弥・荒井弘和 4 . 巻 59 論文標題 大学生アスリートの注意欠如・多動症状と脳震盪の関連 5 . 発行年 2019年 雑誌名 ひ身医学 6 . 最初と最後の頁 47-51 就論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 0.15064/jjpm.59.1_47 査読の有無 無 ープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 - -	- プンアクセスが困難 - 4 . 巻 59 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
著者名 4.巻 59 59 論文標題 大学生アスリートの注意欠如・多動症状と脳震盪の関連 5.発行年 2019年 雑誌名 少身医学 6.最初と最後の頁 47-51 就論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 0.15064/jjpm.59.1_47 査読の有無 無 プンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著	4 . 巻 59 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
金澤潤一郎・榎本恭介・鈴木郁弥・荒井弘和5 . 発行年 2019年論文標題 一定学生アスリートの注意欠如・多動症状と脳震盪の関連6 . 最初と最後の頁 47-51雑誌名 ご身医学6 . 最初と最後の頁 47-51な論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 0.15064/jjpm.59.1_47査読の有無 無ープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)国際共著 -	59 5 . 発行年 車 2019年 6 . 最初と最後の頁
金澤潤一郎・榎本恭介・鈴木郁弥・荒井弘和5 . 発行年 2019年論文標題 一定学生アスリートの注意欠如・多動症状と脳震盪の関連6 . 最初と最後の頁 47-51雑誌名 ご身医学6 . 最初と最後の頁 47-51な論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 0.15064/jjpm.59.1_47査読の有無 無ープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)国際共著 -	59 5 . 発行年 車 2019年 6 . 最初と最後の頁
論文標題 大学生アスリートの注意欠如・多動症状と脳震盪の関連5 . 発行年 2019年雑誌名 ひ身医学6 . 最初と最後の頁 47-51就論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 0.15064/jjpm.59.1_47査読の有無 無プンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)国際共著 -	5 . 発行年 車 2019年 6 . 最初と最後の頁
大学生アスリートの注意欠如・多動症状と脳震盪の関連 2019年 雑誌名の身医学 6.最初と最後の頁47-51 就論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 0.15064/jjpm.59.1_47 無 プンアクセス 国際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) -	2019年 6.最初と最後の頁
大学生アスリートの注意欠如・多動症状と脳震盪の関連 2019年 雑誌名の身医学 6.最初と最後の頁47-51 就論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 0.15064/jjpm.59.1_47 無 プンアクセス 国際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) -	2019年 6.最初と最後の頁
雑誌名	6.最初と最後の頁
は論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) の.15064/jjpm.59.1_47 -プンアクセス	
は論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) の.15064/jjpm.59.1_47 -プンアクセス	
就論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 0.15064/jjpm.59.1_47 無 -プンアクセス 国際共著 オープンアクセスとしている(また、その予定である) -	17 51
# 1.15064/jjpm.59.1_47 無	47-01
# 1.15064/jjpm.59.1_47 無	
# 1.15064/jjpm.59.1_47 無	<u></u> 杏詰の右無
- プンアクセス 国際共著 オープンアクセスとしている (また、その予定である)	
オープンアクセスとしている(また、その予定である) -	ATT.
オープンアクセスとしている(また、その予定である) -	国際共著
·	
▼ 孝 夕	. (0), (200)
	4 . 巻
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	_
571 5474	
論文標題 5.発行年	5.発行年
プスリートの抱える心身医学的問題とその支援 2019年	1 - 1 - 1
2010	2010
雑誌名 6.最初と最後の頁	6 . 最初と最後の百
5 身医学 15-21	
t論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	
0.15064/jjpm.59.1_15 無	無
<i>,,,</i> –	
- プンアクセス 国際共著	国際共著
オープンアクセスとしている(また、その予定である) -	<u>-</u> 、その予定である)
·	
著者名 4.巻	л ж
- 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1	4.2
論文標題 5.発行年	
夏京2020大会の開催延期決定直後における大会開催に対する東京都民の認知 2021年	31
	31 5 . 発行年
雑誌名 6.最初と最後の頁	31 5 . 発行年 対する東京都民の認知 2021年
スポーツ産業学研究	31 5 . 発行年 対する東京都民の認知 2021年
	31 5 . 発行年 対する東京都民の認知 2021年
	31 5 . 発行年 対する東京都民の認知 2021年
は論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	31 5 . 発行年 対する東京都民の認知 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
はし 有	31 5 . 発行年 対する東京都民の認知 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁
	31 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 査読の有無
- プンアクセス 国際共著	31 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 査読の有無
フラアフとス 国际六名	31 5 . 発行年 2021年 6 . 最初と最後の頁 査読の有無
国際共著	国際共著 ニ、その予定である)

1 . 番音名		
京井込和・優本時介・済水智弘・鈴木郁郊・所昭宏 29 2 . 論文階盤 大学生アスリートにおけるかぜ症候群・インフルエンザおよび花粉症の罹患状況と対処行動 5. 飛行年 2021年 3 . 創誌名 日本観散の2020 (デジタルオプジェクト護例子) なし 直続の有無 有 1 . 著書名 永井込和・鈴木世奈・友野一希・竹内洋輔 4. 巻 2. 論文構題 新型コロナウイルス感染症と氷上アスリート 3 . 謝誌名 水上スポーツ研究 6. 最初と最後の頁 13-14 2 . 論文構題 新型コロナウイルスの場所をと氷上アスリート 2. 最初と最後の頁 13-14 3 . 謝誌名 水上スポーツ研究 6. 最初と最後の頁 13-14 1 . 著名名 下はい、よ、& krai、H 4. 巻 2. 論文階盤 Inpact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postporing the Tokyo 2020 Olympic and Paratympic Games 5. 飛行年 2020年 3 . 謝話名 Journal of Loss and Trauma 6. 最初と厳後の頁 623-630 1 . 著名名 完井込和・優本的介・鈴木郁浴・青野博 4. 巻 30 1 . 著名名 完井込和・優本的介・鈴木郁浴・青野博 4. 巻 30 2 . 論文格題 大学生散技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に、キャンペーンに関する実 施設査 スポーツ産業学研究 6. 最初と最後の頁 215-221 掲載論文の201 (デジタルオブジェクト識別子) 10.5987/sposun.30.2,215 6. 最初と最後の頁 215-221 掲載論文の201 (デジタルオブジェクト識別子) 10.5987/sposun.30.2,215 6. 最初と最後の頁 215-221 オープンアクセス 国際共著	1.著者名	4 . 巻
2 . 論文博題		29
大学生アスリートにおけるかぜ症候群・インフルエンザおよび花粉症の罹患状況と対処行動 2021年 3. 剤証名 日本健康教育学会誌 6. 最初と最後の頁 日本健康教育学会誌 掲載論文のDOO (デジタルオブジェクト識別子) なし 国際共著 - 1. 著名名 荒井弘和・鈴木世宗・友野一希・竹房洋輔 4. 巻 2 2. 論文接題 新型コロナウイルス修染症と氷上アスリート 5. 飛行年 2020年 3. 礼証名 水上スポーツ研究 6. 最初と最後の頁 13:14 4. 一方ンアクセス オープンアクセス 国際共著 - 1. 著名名 「おおい、氏、& Arai、H 4. 巻 2. 論文接題 旧内立は of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 5. 発行年 2020年 2020年 2020年 5. 発行年 2020年 6. 最初と最後の頁 6. 23-630 30 1. 著名名 荒井弘和・優本統介・鈴木郁沖・青野博 4. 巻 3. 利証名 大学主教技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアブレイで日本を元気に、キャンペーンに関する実 施調査 3. 利証名 7. スポーツ産業学研究 4. 巻 30 1. 著名名 荒井弘和・優本統介・鈴木郁沖・青野博 4. 巻 30 2. 論文模型 「新規を認介のDOO (デジタルオブジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2.215 6. 最初と最後の頁 215-221 村村教諭文のDOO (デジタルオブジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2.215 6. 最初の石原 6. 最初の名 7. アブンアクセス 6. 最初の名 7. アブンアクセス 日際共著 6. 最初の名 7. アブンアクセス 国際共著	NUT THE BATTOM TO THE TAIL THE TOTAL THE TAIL TH	
大学生アスリートにおけるかぜ症候群・インフルエンザおよび花粉症の罹患状況と対処行動 2021年 3. 剤証名 日本健康教育学会誌 6 - 最初と最後の頁 日本健康教育学会誌 掲載論文のDOO (デジタルオブジェクト護別子) なし 国際共著 - 1. 著名名 流井弘和・鈴木世宗・友野一希・竹内洋輔 4 - 巻 2 2. 論文接題 新型コロナウイルス修染症と氷上アスリート 5 - 飛行年 2020年 3. 利証名 水上スポーツ研究 6 - 最初と最後の頁 13・14 4 - 巻 新型コロナウイルス修染症と氷上アスリート 6 - 最初と最後の頁 13・14 3. 利証名 水上スポーツ研究	A A A TOTAL	_ 7/
3 . 耐証名 日本健康教育学会誌	2 . 論文標題	5.発行年
3 . 耐証名 日本健康教育学会誌	大学生アスリートにおけるかぜ症候群・インフルエンザおよび花粉症の罹患状況と対処行動	2021年
日本健康教育学会誌 掲載論文のDDI(デジタルオブジェクト選別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著名名 荒井弘和・鈴木世奈・友野一希・竹内洋輔 2. 流文標題 新型コロナウイルス感染症と氷上アスリート 3. 補助名 水上スポーツ研究 3. 補助名 水上スポーツ研究 4. 巻 2 2. 論文標題 水上スポーツ研究 3. 補助名 水上スポーツ研究 4. 巻 2 3) (1 = 1) (1 = 1 = 1 = 1 = 1 = 1 = 1 = 1 = 1 = 1	
日本健康教育学会誌 「およい アプラウス 方・ブンアクセスとしている(また、その予定である) 「・著名名 飛井込和・鈴木世奈・友野一希・竹内洋輔 2・・ 現井込和・鈴木世奈・友野一希・竹内洋輔 2・・ 現井込和・鈴木世奈・友野一希・竹内洋輔 2・ 現井込和・鈴木世奈・友野一希・竹内洋輔 2・	2 18-5-47	6 目初し目後の百
お取論文のDDI(デジタルオブジェクト選別子) なし 日際共著 日際共著 日際共著 日際共著 1 著名名 1 子 ガーブンアクセスとしている(また、その予定である) 日際共著 2 2 2 2 3 3 4 5 2 2 2 3 3 4 5 4 5 5 3 5 5 3 5 5 5 5	3.雜誌名	6.最例と最後の貝
お取論文のDDI(デジタルオブジェクト選別子) なし 日際共著 日際共著 日際共著 日際共著 1 著名名 1 子 ガーブンアクセスとしている(また、その予定である) 日際共著 2 2 2 2 3 3 4 5 2 2 2 3 3 4 5 4 5 5 3 5 5 3 5 5 5 5	日本健康教育学会誌	
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 1 ※ 著名名 京井弘和・鈴木世奈・友野一希・竹内洋輔 2 . 論文博館 新型コロナウイルス懸染症と氷上アスリート 2 . 記文博館 新型コロナウイルス懸染症と氷上アスリート 3 . 雑誌名 水上スポーツ研究 5 . 銀行年 2 . 記文 #		
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 日際共著 1 ※著名名 京井弘和・鈴木世奈・友野一希・竹内洋輔 2 . 論文博館 新型コロナウルス穏染症と氷上アスリート 2020年 2020年 13:14 日本 2020年 13:14 日本 2020年		
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 日際共著 1 ※著名名 京井弘和・鈴木世奈・友野一希・竹内洋輔 2 . 論文博館 新型コロナウルス穏染症と氷上アスリート 2020年 2020年 13:14 日本 2020年 13:14 日本 2020年		
1 . 著名名	掲載論文のDOI(テシタルオフシェクト識別子)	
1 . 著名名	요.	有
1 著名名 元		13
1 著名名 元	ナーナンファトフ	国際共業
1 . 著者名	· · · · · · =· ·	国际共有
1 . 著者名	オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
売井込和・鈴木世奈・友野一希・竹内洋輔 2 2 . 論文様題 新型コロナウイルス感染症と氷上アスリート 5 . 飛行年 2020年 3 . 雑誌名 水上スポーツ研究 6 . 最初と最後の頁 13-14 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし 重読の有無 無 オーブンアクセス 国際共著 1 . 著者名 Taku, K . & Arai, H 4 . 巻 25 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 5 . 飛行年 2020年 3 . 練誌名 Journal of Loss and Trauma 6 . 最初と最後の頁 623-630 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. 重読の有無 30 1 . 著者名 荒井込和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 4 . 巻 30 2 . 論文標題 大学生館技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアブレイで日本を元気に、キャンペーンに関する実 修調室 2. 論文標題 大学生館技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアブレイで日本を元気に、キャンペーンに関する実 修調室 3 . 練誌名 スポーツ産業学研究 5 . 発行年 2020年 2015-221 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.5987/5posun.30.2.215 6 . 最初と最後の頁 215-221 オーブンアクセス 国際共著		
売井込和・鈴木世奈・友野一希・竹内洋輔 2 2 . 論文様題 新型コロナウイルス感染症と氷上アスリート 5 . 飛行年 2020年 3 . 雑誌名 水上スポーツ研究 6 . 最初と最後の頁 13-14 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし 重読の有無 無 オーブンアクセス 国際共著 1 . 著者名 Taku, K . & Arai, H 4 . 巻 25 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 5 . 飛行年 2020年 3 . 練誌名 Journal of Loss and Trauma 6 . 最初と最後の頁 623-630 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. 重読の有無 30 1 . 著者名 荒井込和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 4 . 巻 30 2 . 論文標題 大学生館技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアブレイで日本を元気に、キャンペーンに関する実 修調室 2. 論文標題 大学生館技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアブレイで日本を元気に、キャンペーンに関する実 修調室 3 . 練誌名 スポーツ産業学研究 5 . 発行年 2020年 2015-221 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.5987/5posun.30.2.215 6 . 最初と最後の頁 215-221 オーブンアクセス 国際共著	4 ***	4 **
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症と氷上アスリート 3. 雑誌名 水上スポーツ研究 4. 最初になるのでは、アジタルオブジェクト識別子) なし 1. 著者名 Taku, K. & Arai, H 2. 論文標題 「Journal of Loss and Trauma 「裁談法ののDOI (デジタルオブジェクト識別子) 「Journal of Loss and Trauma 「裁談法ののDOI (デジタルオブジェクト識別子) 「Journal of Loss and Trauma 「表彰法を オープンアクセス 「表彰法を 「Journal of Loss and Trauma 「表彰法を オープンアクセス 「表彰法を 「カープンアクセス 「表彰法を 「カープンアクセス 「表彰法を 「カープンアクセス 「大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアブレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実施調査 3. 雑誌名 スポーツ産業学研究 「表彰法を 「スポーツ産業学研究 「表彰法を 「大学生教技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアブレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実施調査 3. 神話名 スポーツ産業学研究 「表彰法を 「表非込和・授本が介・鈴木郎弥・青野博 「表彰法を 「表別と最後の頁 「フェアブレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実施調査 「表彰法を対象とした日本スポーツ協会の「フェアブレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実施調査 「表彰法を対象とした日本スポーツ協会の「フェアブレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実施調査 「表彰法を対象とした日本スポーツ協会の「フェアブレイで日本を元気に」・カーンに関する実施調査 「表彰法を対象とした日本スポーツ協会の「フェアブレイで日本を元気に」・カーンペーンに関する実施調査 「表彰法を対象とした日本スポーツ協会の「フェアブレイで日本を元気に」・カーンペーンに関する実施調査 「表彰法を対象とした日本スポーツ協会の「フェアブレイで日本を元気に」・カーンペーンに関する実施調査 「表彰法を対象とした日本スポーツ協会の「フェアブレイで日本を元気に」・カーンペーンに関する実施の有無力に、表述を表述の再述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述	1.者有名	_
新型コロナウイルス感染症と氷上アスリート 3 . 雑誌名 水上スポーツ研究 6 . 最初と最後の頁 13-14 掲載論文の2001(デジタルオブジェクト識別子) なし 1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 6 . 最初と最後の頁 623-630 1 . 著者名 第井込和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 1 . 著者名 第井込和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 2 . 論文標題 第上	荒井弘和・鈴木世奈・友野一希・竹内洋輔	2
新型コロナウイルス感染症と氷上アスリート 3 . 雑誌名 水上スポーツ研究 6 . 最初と最後の頁 13-14 掲載論文の2001(デジタルオブジェクト識別子) なし 1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 6 . 最初と最後の頁 623-630 1 . 著者名 第井込和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 1 . 著者名 第井込和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 2 . 論文標題 第上		
新型コロナウイルス感染症と氷上アスリート 2020年 3. 雑誌名 水上スポーツ研究 6. 最初と最後の頁 13-14 掲載論文の2001(デジタルオブジェクト識別子) なし 1. 著書名 Taku, K. & Arai, H 2. 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3. 雑誌名 Journal of Loss and Trauma およびの201(デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024、2020、1777762. 第十3人和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 1. 著書名 荒井込和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 2. 論文標題 表示する人和・一プンアクセスとしている(また、その予定である) 1. 著書名 荒井込和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 2. 論文律競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアブレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実施調査 3. 雑誌名 スポーツ産業学研究 4. 巻 30 5. 発行年 2020年 8. 機調査 3. 雑誌名 スポーツ産業学研究 4. 巻 30 2. 論文律競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアブレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実施調査 3. 雑誌名 スポーツ産業学研究 4. 巻 30 2. 音読の有無 2020年 8. 機調査 3. 雑誌名 スポーツ産業学研究 4. 巻 30 30 31 4. 巻 30 30 30 4. 巻 30 30 30 4. 巻 30 30 4. 巻 30 30 30 4. 巻 30 30 4. 巻 30 30 30 4. 巻 30 30 30 4. 巻 30 30 4. 巻 30 30 4. 巻 30 5. 発行年 2020年 4. 巻 4. 巻 4. 巻 4. 巻 4. 巻 25 5. 発行年 2020年 4. 巻 4. 巻 2020年 4. 巻 2020年 4. 巻 2020年 4	고 ^소 소수 +표명5	F 整仁年
3 ・雑誌名 水上スポーツ研究	·····	
3 ・雑誌名 水上スポーツ研究	新型コロナウイルス感染症と氷上アスリート	2020年
# 13-14		
# 13-14	う Mt학 선	6 早初と早後の百
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 .		
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 .	氷上スポーツ研究	13-14
### オープンアクセス		
### オープンアクセス		
### オープンアクセス	10 ±0.54 2 ± 0.0 (= 0° 5 ° E 11 1 = 0° 5 ° E 1 440 C 1 = 7	+++ - + m
オープンアクセス	掲載論文のDOI(デジタルオフジェクト識別子)	査読の有無
オープンアクセス	なし	==
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	3.0	All .
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	+ =	
1. 著者名 Taku, K. & Arai, H 4 . 巻 25 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 6 . 最初と最後の頁 623-630 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10 .1080/15325024.2020.1777762. 重読の有無 有 オープンアクセス 国際共著 ボ井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 4 . 巻 30 1 . 養者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 4 . 巻 30 2 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実 総調査 スポーツ産業学研究 5 . 発行年 2020年 2015-221 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10 .5997/sposun .30 .2 _215 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	オーノンアクセス	国除共者
1. 著者名 Taku, K. & Arai, H 4 . 巻 25 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 6 . 最初と最後の頁 623-630 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10 .1080/15325024.2020.1777762. 重読の有無 有 オープンアクセス 国際共著 ボ井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 4 . 巻 30 1 . 養者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 4 . 巻 30 2 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実 総調査 スポーツ産業学研究 5 . 発行年 2020年 2015-221 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10 .5997/sposun .30 .2 _215 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	ファー・ オープンアクセスではない ▽はオープンアクセスが困難	-
Taku, K. & Arai, H 25 2. 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 5. 発行年 2020年 3. 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 6. 最初と最後の頁 623-630 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. 査読の有無 有 3 オープンアクセス 国際共著 30 1. 著者名		
Taku, K. & Arai, H 25 2. 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 5. 発行年 2020年 3. 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 6. 最初と最後の頁 623-630 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. 査読の有無 有 3 オープンアクセス 国際共著 30 1. 著者名	コープンプラとのでは多く、人間コープンプラとのは四衆	
2 . 論文標題		1 4 44
2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 6 . 最初と最後の頁 623-630 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. 査読の有無 有 オープンアクセス 大ープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 該当する 1 . 著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 4 . 巻 30 2 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアブレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実 應調査 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 スポーツ産業学研究 6 . 最初と最後の頁 215-221 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215 査読の有無 有 オーブンアクセス 国際共著	1 . 著者名	
Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 2020年	1 . 著者名	
Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 2020年	1 . 著者名	
postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 6 . 最初と最後の頁 3 . 雑誌名 6 . 最初と最後の頁 Journal of Loss and Trauma 623-630 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 10.1080/15325024.2020.1777762. 国際共著 オーブンアクセス 国際共著 1 . 著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 4 . 巻 2 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実態調査 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 スポーツ産業学研究 6 . 最初と最後の頁 215-221 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	1.著者名 Taku, K. & Arai, H	25
3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 6 . 最初と最後の頁 623-630 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著 該当する 1 . 著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 4 . 巻 30 2 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実 態調査 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 スポーツ産業学研究 6 . 最初と最後の頁 215-221 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	1.著者名 Taku, K. & Arai, H 2.論文標題	25 5 . 発行年
3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 6 . 最初と最後の頁 623-630 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著 該当する 1 . 著者名	1.著者名 Taku, K. & Arai, H 2.論文標題	25 5 . 発行年
But	1.著者名 Taku, K. & Arai, H 2.論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of	25 5 . 発行年
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. オープンアクセス 1 . 著者名	1. 著者名 Taku, K. & Arai, H 2. 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games	25 5.発行年 2020年
10.1080/15325024.2020.1777762.有オープンアクセス国際共著1.著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博4.巻 302.論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実5.発行年 2020年3.雑誌名 スポーツ産業学研究6.最初と最後の頁 215-221掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215査読の有無 有オープンアクセス国際共著	1. 著者名 Taku, K. & Arai, H 2. 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3. 雑誌名	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁
10.1080/15325024.2020.1777762.有オープンアクセス国際共著1.著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博4.巻 302.論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実5.発行年 2020年3.雑誌名 スポーツ産業学研究6.最初と最後の頁 215-221掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215査読の有無 有オープンアクセス国際共著	1. 著者名 Taku, K. & Arai, H 2. 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3. 雑誌名	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁
10.1080/15325024.2020.1777762.有オープンアクセス国際共著1.著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博4.巻 302.論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実5.発行年 2020年3.雑誌名 スポーツ産業学研究6.最初と最後の頁 215-221掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215査読の有無 有オープンアクセス国際共著	1. 著者名 Taku, K. & Arai, H 2. 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3. 雑誌名	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁
10.1080/15325024.2020.1777762.有オープンアクセス国際共著オープンアクセスとしている(また、その予定である)国際共著1.著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博4.巻 302.論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実5.発行年 2020年8.調査 スポーツ産業学研究6.最初と最後の頁 215-221掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215査読の有無 有オープンアクセス国際共著	1. 著者名 Taku, K. & Arai, H 2. 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3. 雑誌名	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁
オープンアクセス 国際共著	1. 著者名 Taku, K. & Arai, H 2. 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3. 雑誌名 Journal of Loss and Trauma	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 623-630
オープンアクセス 国際共著	1. 著者名 Taku, K. & Arai, H 2. 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3. 雑誌名 Journal of Loss and Trauma	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 623-630
オープンアクセスとしている(また、その予定である)該当する1 . 著書名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博4 . 巻 302 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実態調査5 . 発行年 2020年3 . 雑誌名 スポーツ産業学研究6 . 最初と最後の頁 215-221掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215査読の有無 有オープンアクセス国際共著	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 623-630 査読の有無
オープンアクセスとしている(また、その予定である)該当する1 . 著書名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博4 . 巻 302 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実態調査5 . 発行年 2020年3 . 雑誌名 スポーツ産業学研究6 . 最初と最後の頁 215-221掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215査読の有無 有オープンアクセス国際共著	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 623-630 査読の有無
1 . 著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 4 . 巻 30 2 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実 態調査 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 スポーツ産業学研究 6 . 最初と最後の頁 215-221 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	1. 著者名 Taku, K. & Arai, H 2. 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3. 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762.	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 623-630 査読の有無
1 . 著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 4 . 巻 30 2 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実 態調査 5 . 発行年 2020年 3 . 雑誌名 スポーツ産業学研究 6 . 最初と最後の頁 215-221 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215 査読の有無 有 オープンアクセス 国際共著	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762.	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有
荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博302.論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実態調査5.発行年 2020年3.雑誌名 スポーツ産業学研究6.最初と最後の頁 215-221掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215査読の有無 有オープンアクセス国際共著	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762.	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有
荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博302.論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実態調査5.発行年 2020年3.雑誌名 スポーツ産業学研究6.最初と最後の頁 215-221掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215査読の有無 有オープンアクセス国際共著	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762.	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有
2.論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実態調査5.発行年 2020年3.雑誌名 スポーツ産業学研究6.最初と最後の頁 215-221掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215査読の有無 有オープンアクセス国際共著	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有 国際共著 該当する
2.論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実態調査5.発行年 2020年3.雑誌名 スポーツ産業学研究6.最初と最後の頁 215-221掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215査読の有無 有オープンアクセス国際共著	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有 国際共著 該当する
大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実態調査2020年3.雑誌名 スポーツ産業学研究6.最初と最後の頁 215-221掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215査読の有無 有オープンアクセス国際共著	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有 国際共著 該当する
大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実態調査2020年3.雑誌名 スポーツ産業学研究6.最初と最後の頁 215-221掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215査読の有無 有オープンアクセス国際共著	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有 国際共著 該当する
態調査6.最初と最後の頁 215-221掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215査読の有無 有オープンアクセス国際共著	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博	25 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 30
態調査6.最初と最後の頁 215-221掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215査読の有無 有オープンアクセス国際共著	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 2 . 論文標題	25 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 30 5.発行年
3.雑誌名 スポーツ産業学研究6.最初と最後の頁 215-221掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215査読の有無 有オープンアクセス国際共著	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 2 . 論文標題	25 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 30
スポーツ産業学研究215-221掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5997/sposun.30.2_215査読の有無 有オープンアクセス国際共著	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 2 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実	25 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 30
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 10.5997/sposun.30.2_215 有	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 2 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実態調査	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 30 5 . 発行年 2020年
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 査読の有無 10.5997/sposun.30.2_215 有	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 2 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実態調査 3 . 雑誌名	25 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 30 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁
10.5997/sposun.30.2_215 有 オープンアクセス 国際共著	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 2 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実態調査 3 . 雑誌名	25 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 30 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁
10.5997/sposun.30.2_215 有 オープンアクセス 国際共著	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 2 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実態調査 3 . 雑誌名	25 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 30 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁
10.5997/sposun.30.2_215 有 オープンアクセス 国際共著	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 2 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実態調査 3 . 雑誌名	25 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 30 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁
オープンアクセス 国際共著	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 2 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実態調査 3 . 雑誌名 スポーツ産業学研究	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 30 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 215-221
オープンアクセス 国際共著	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 2 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実態調査 3 . 雑誌名 スポーツ産業学研究	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 30 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 215-221
	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 2 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実態調査 3 . 雑誌名 スポーツ産業学研究	25 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 30 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 215-221 査読の有無
	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15325024.2020.1777762. オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 2 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実態調査 3 . 雑誌名 スポーツ産業学研究	25 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有 国際共著 該当する 4.巻 30 5.発行年 2020年 6.最初と最後の頁 215-221 査読の有無
オープンアクヤスとしている(また その予定である) -	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10 . 1080/15325024 . 2020 . 1777762 . オープンアクセス オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 2 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実態調査 3 . 雑誌名 スポーツ産業学研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10 . 5997/sposun . 30 . 2_215	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 30 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 215-221 査読の有無 有
	1 . 著者名 Taku, K. & Arai, H 2 . 論文標題 Impact of COVID-19 on athletes and coaches, and their values in Japan: Repercussions of postponing the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games 3 . 雑誌名 Journal of Loss and Trauma 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10 . 1080/15325024 . 2020 . 1777762 . オープンアクセス オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 荒井弘和・榎本恭介・鈴木郁弥・青野博 2 . 論文標題 大学生競技者を対象とした日本スポーツ協会の「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンに関する実態調査 3 . 雑誌名 スポーツ産業学研究 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10 . 5997/sposun . 30 . 2_215	25 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 623-630 査読の有無 有 国際共著 該当する 4 . 巻 30 5 . 発行年 2020年 6 . 最初と最後の頁 215-221 査読の有無 有

1 . 著者名 荒井弘和	4.巻 70
2 . 論文標題 アントラージュの多様性がアスリートセンタードを導く	5 . 発行年 2020年
3.雑誌名 体育の科学	6.最初と最後の頁 743-747
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
1 . 著者名 荒井弘和・宅香菜子	4 .巻 70
2 . 論文標題 新型コロナウイルスの感染拡大とアスリートセンタード	5 . 発行年 2020年
3.雑誌名 体育の科学	6.最初と最後の頁 593-597
掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし	査読の有無無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著
〔学会発表〕 計5件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)	
1 . 発表者名 荒井弘和・深町花子・榎本恭介	
2.発表標題 価値が明確な大学生アスリートは幸せか?	
3 . 学会等名 日本スポーツ心理学会46回大会	
4 . 発表年 2019年	
1 . 発表者名 荒井弘和・深町花子・鈴木郁弥・榎本恭介	
2 . 発表標題 大学生アスリートのスポーツ・ライフ・バランスはウェル・ビーイングと関連する	
3 . 学会等名 日本スポーツ心理学会45回大会	

4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 荒井弘和	
ль 7 т за тн	
スポーツメンタルトレーニング指導士から見たアスリートの心理サポート(自主シンポジウム:認知行動療	法の実践におけるスポーツ領域
の特異性)	
3.学会等名	
日本認知・行動療法学会第44回大会	
2018年	
1.発表者名	
2.発表標題	
受傷アスリートの胸の内(シンポジウム:みんなで考えるオーバーユース障害の予防と治療)	
│ 3.学会等名 │ 第13回埼玉アスレチック・リハビリテーション研究会	
第13回埼玉アスレテック・サバビサナーション研九会 	
4 . 発表年	
2018年	
1.発表者名	
荒井弘和・榎本恭介・清水智弘	
2.発表標題 大学生ススリートにおけるかぜ序候群への対処行動	
大学生アスリートにおけるかぜ症候群への対処行動 	
日本スポーツ心理学会47回大会	
4 . 発表年 2020年	
〔図書〕 計2件 [1] 第4名	A 整行生
1.著者名 平野裕一・土屋裕睦・荒井弘和	4 . 発行年 2019年
——————————————————————————————————————	,
2.出版社	5 . 総ページ数
培風館	223
3 . 書名	
グッドコーチになるためのココロエ	

1 . 著者名 荒井弘和 	4 . 発行年 2020年
2.出版社	5.総ページ数
晶文社	272
3 . 書名	
アスリートのメンタルは強いのか? スポーツ心理学の最先端から考える	

〔産業財産権〕

〔その他〕

法政大学スポーツ心理学研究室のホームページ
http://health.sports.coccan.jp/wp/
法政大学文学部心理学科スポーツ心理学研究室のホームページ
http://health.sports.coccan.jp/index.html

6	. 研究組織		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7.科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------